デジタル版
2025年
02月06日号
Vol. 144

成岡マネジメントオフィス事務所通信

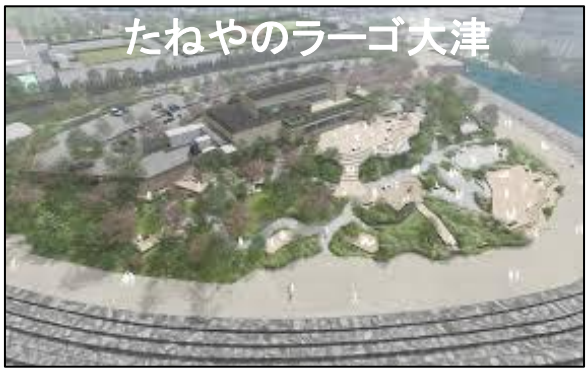
NMO OfficeLetter

体験型コト消費施設オープン続く！

和菓子や宇治茶を製造販売する京都、滋賀地区の老舗企業で、体験型集客施設の建設が多く見られるようになった。木津川市の福寿園（宇治茶の製造販売）や滋賀県近江八幡のたねやも大津市に大型の施設をオープンさす。ものづくりや伝統文化に触れる機会を通じてそのプロセスを体験し、「コト消費」の活性化を目指す取り組みが活発になっている。インバウンド観光客に対するPR効果も含め、新しいビジネスモデルとして注目を集めている。

＜解説＞木津川市の福寿園では11月末に山城館と命名した施設を来年3月にオープンすると発表した。お茶どころとして有名な京都府山城地区に、文化・観光拠点として約10億円を投資して完成させる。お茶を通じ多様な人々が集い、対話や交流を楽しめる空間を目指す。茶問屋文化や製茶の工程などを体験でき、敷地内に1万本のお茶の木が植わっている。将来は、この場所で茶摘みの体験もできる。製茶の機械を展示し、館内のレストランではお茶にちなむ料理を提供する。宇治茶はペットボトル飲料としてはヒットしている商品もあるが、純粋なお茶の消費量は年々減少の一途をたどっている。

反対に、海外では緑茶や抹茶の消費量は拡大し、インバウンド観光客の集客も見込める。2万㎡ある敷地内に伊右衛門ティーガーデンと茶問屋ストリートという2種類のエリアを設け、12の建物を配置する。面する24号線を意識し、宇治茶街道を行く、というコンセプトを定めた。50種類の茶の木を植樹し、茶畑、展望所、体験教室を併設し、お茶農家の日常的な仕事内容を理解してもらう。ストリートでは、古い建物を改修し、茶問屋の倉庫を復活。過去、お茶で栄えた当時の情景を再現した。日本茶800年の歴史を学び、体験する。滋賀県では、2025年に近江八幡市にたねやがオープンしたラ・コリーナ近江八幡



が有名だ。看板商品のバームクーヘンの製造過程を見学でき、来場者は年間400万人を超えた。今回は、大津市に物販やカフェ、工房を備えた中核施設を開設する。これ以外にも、生八つ橋製造販売の事業者や洋菓子の事業者が京都市内にカフェと製造を一体にした複合施設をオープンした。菓子作りの工程を見せることで、商品価値が高まり、週末は多くの来店者で賑わう。単に製造して販売するだけではなく、その工程を見せ、体験してもらうことで、多くのファンを惹きつける魅力を発信する拠点としての役割を果たしている。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.